

コロナ禍でも地域や社会へ元気を与えるブランディング事業

神奈川工科大学は2018年度に「文部科学省私大研究ブランディング事業」に採択されたことを契機に、大学の先進的な研究成果を基に自治体や企業、地域住民と連携して高齢者の「健康」「安心」「生きがい」を多面的にサポートする先進高齢者支援システムの構築を進めている。同事業の期限は5年で21年度が4年目。支援システムの実用化へ実証実験を進める時期となった。コロナ禍でも社会に元気を与えるべく、できることを着実に進める。

神奈川工科大学

「新型コロナウイルス感染症の影響で実験の進捗に遅れはある。だが、いままでできることを着実に実施し、収束後に備えている」。小宮学長はブランディング事業の現状についてこう話す。

神奈川工科大学は18年度から、全学が連携して高齢者支援システムに必要な諸技術の研究を6グループに分けて進めてきた。だれでも簡単に運動機能検査ができる機器「健康a.iちゃん」や、コミュニケーションをとりつつ体調を検知するロ



学長 小宮 一三氏

ボット、家電などの居住空間で意識することなく、高齢者の状態を把握する（AI）システムの研究システムといった成果が、も進む。看護学科の介護

福祉関連の知見や、生命科学、社会的な考えも反映している。20年度には、NTT東日本や神奈川県、神奈川県厚木市、厚木商工会議所といった多様な企業組織のほか、地区自治会や高校生が参加するコンシウム「先進高齢者支援コンシウム（KSCC）：Kanagawa Smart Care-Consortium」を立ち上げた。

コロナ禍で実際に顔を合わせるのが難しい中、地域との連携や高校生との意見交換にはオンライン形式を活用している。小宮学長によると、参加者の熱心さ、特に地域高齢者の元気な姿勢に助けられ情報や方向性の共有が進んでいる。また、オンライン形式のた

め「全国の高校生が興味を持ってオンラインで参加できる」という利点も生まれた。ITの利点をフルに生かし全国に情報発信する。ブランディング事業の期間は5年。だが、地域高齢者の生活支援の取り組みを実現するため、期間終了後も継続できる体制を整える必要がある。オンライン形式で実施し

た。小宮学長はコロナ禍を通じてITに再度焦点が当たったとし「ITやAI、IoT（モノのインターネット）はビジネスで使われてきたが、今後は一般人が使うものになる」と見る。その際に必要なのが、知識がなくても利用できることだ。生活に溶け込む先進技術を確立するため、神奈川工科大学をセンター的な役割にすることを目指す。



地域アドバイザーの方を対象とする実証実験の様子。対象者の動きをリアルタイムで解析している

日本でもコロナ対策でワクチン接種が進み、収束の兆しが見えてきた。神奈川工科大学は11月にブランディング事業の成果を披露するシンポジウムを開く予定だ。状況次第ではあるが、シンポジウムであらためて事業の重要性を説き、斬新なアイデアを持つベンチャー企業などとオープンイノベーションを積極化したいという。小宮学長は「ギアを上げる準備はできている。元気を失いがちな時期だが、取り組みを進めることで地域や社会に元気を与えたい」としている。

知を次代に

7 神奈川の大学

地域社会への貢献

急速に進む高齢化社会の課題を解決するため研究ブランディング事業をはじめとし、多様な研究を通して地域社会への貢献に取り組んでいます。産官学連携についてはリエゾンオフィスにお問い合わせください。



工学部

機械工学科 機械工学コース
機械工学科 航空宇宙学コース
電気電子情報工学科
応用化学科

創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

応用バイオ科学部

応用バイオ科学科 応用バイオコース
応用バイオ科学科 生命科学コース

情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

健康医療科学部

看護学科（看護師・保健師養成課程）
管理栄養学科（管理栄養士養成課程）
臨床工学科（臨床工学技士養成課程）



TEL 046-291-3002 URL <https://www.kait.jp/>
E-mail liaison@kait.jp
〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030
「kait」で検索するとHPにアクセスできます。
kait 検索